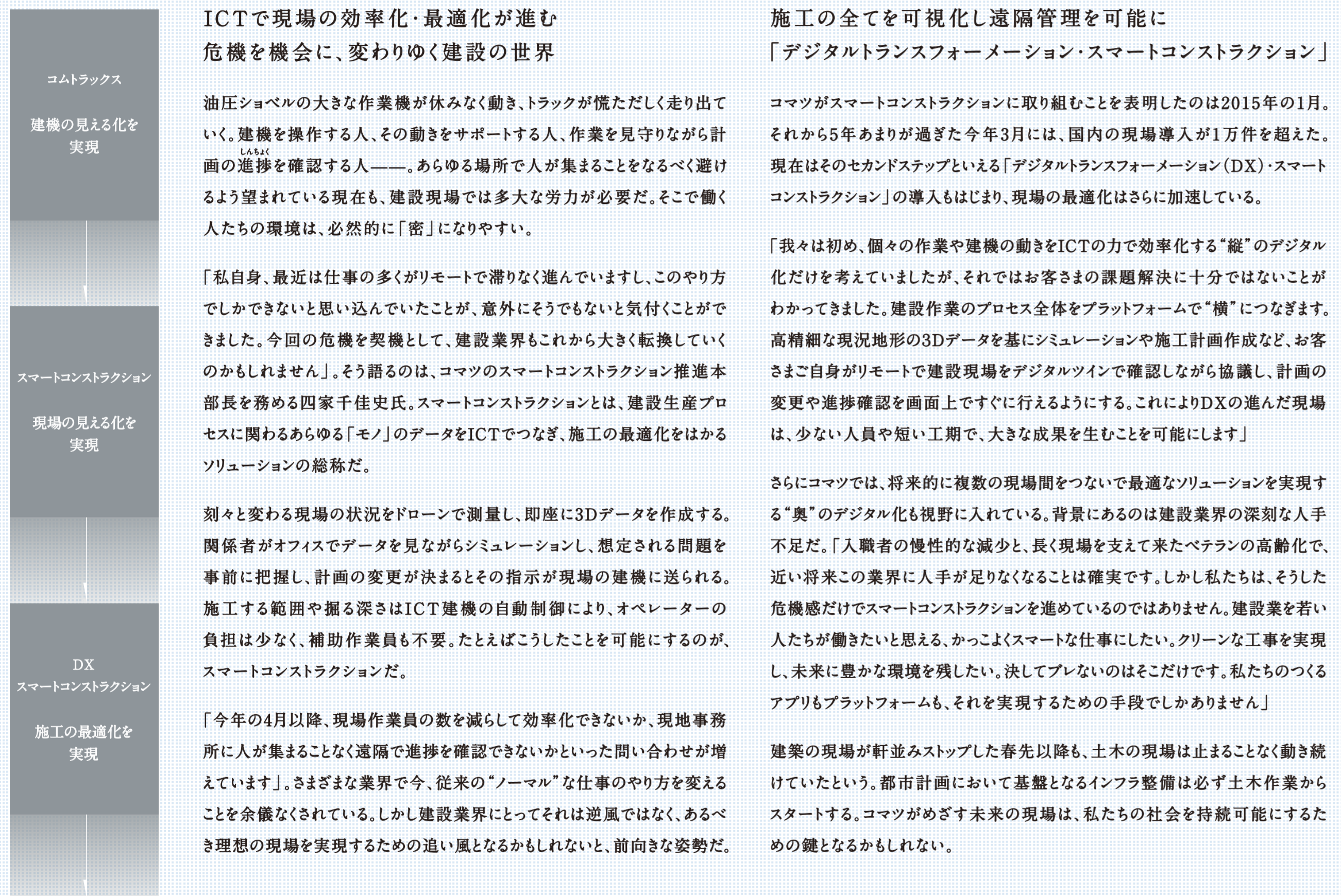


DXが進んだ現場は、 「密」のない現場だ。

「デジタル化により、現場の全プロセスを遠隔管理できる」時代が、始まっている。
デジタルトランスフォーメーションによって生まれた「あるべき理想の現場」は、「密」のない現場になっていた。



施工の全てを可視化し遠隔管理を可能に
「デジタルトランスフォーメーション・スマートコンストラクション」

コマツがスマートコンストラクションに取り組むことを表明したのは2015年の1月。それから5年あまりが過ぎた今年3月には、国内の現場導入が1万件を超えた。現在はそのセカンドステップといえる「デジタルトランスフォーメーション(DX)・スマートコンストラクション」の導入もはじまり、現場の最適化はさらに加速している。

「我々は初め、個々の作業や建機の動きをICTの力で効率化する“縦”のデジタル化だけを考えていましたが、それではお客さまの課題解決に十分ではないことがわかってきました。建設作業のプロセス全体をプラットフォームで“横”につなぎます。高精細な現況地形の3Dデータを基にシミュレーションや施工計画作成など、お客さまご自身がリモートで建設現場をデジタルツインで確認しながら協議し、計画の変更や進捗確認を画面上ですぐに行えるようにする。これによりDXの進んだ現場は、少ない人員や短い工期で、大きな成果を生むことを可能にします」

さらにコマツでは、将来的に複数の現場間をつないで最適なソリューションを実現する“奥”のデジタル化も視野に入れている。背景にあるのは建設業界の深刻な人手不足だ。「入職者の慢性的な減少と、長く現場を支えて来たベテランの高齢化で、近い将来この業界に人手が足りなくなることは確実です。しかし私たちは、そうした危機感だけでスマートコンストラクションを進めているわけではありません。建設業を若い人たちが働きたいと思える、かっこよくスマートな仕事にしたい。クリーンな工事を実現し、未来に豊かな環境を残したい。決してブレないのはそこだけです。私たちのつくるアプリもプラットフォームも、それを実現するための手段でしかありません」

建築の現場が軒並みストップした春先以降も、土木の現場は止まることなく動き続けていたという。都市計画において基盤となるインフラ整備は必ず土木作業からスタートする。コマツがめざす未来の現場は、私たちの社会を持続可能にするための鍵となるかもしれない。



施工のデジタルトランスフォーメーションを加速させ、
「安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場」の実現へ。



コマツの企業ロゴタイプの「T」の上にある四角形(上昇するスクエア)に込められているのは「飛躍」「挑戦」「Technology」であり、コマツのものづくりの精神を表したもの。DX®の時代となっても、その精神は受け継がれ、技術へのこだわりが新たな価値やサービスを生み出していく。そんな思いを込め、上昇するスクエアをDXにつけ、「あるべき理想の現場」の実現をめざすコマツのメッセージとしました。

※DX (Digital transformation)
デジタル技術駆使した新しいサービスやビジネスモデルを創出し、働き方や生活、社会をより良いものに革新すること。

